

立ちなさい さあ、行こう

ブロックアドバイザー 蔦田 聡毅



「立ちなさい。さあ、行こう。見なさい。わたしを裏切る者が近くに来ています。」（マタイ二六・46）

第77次年会を越えて、新しい年度の営みが始まっています。今次年会の特徴の一つは、今年頭に代表から発信されたように「祈る年」「祈る年会」でした。通常は関東の諸教会合同で一回開かれる年会準備祈祷会が、今年は2、3月に一度ずつ、しかもZoomを使って全国の有志参加者とともに祈りを重ねることが許されました。年会中にも朝に夕に、祈りの時が開かれました。もう一つは組織改革検討チームによる年会への答申が出され、小グループに分かれて真剣な検討がなされたことです。更に1年をかけて検討し、祈りつつ取り組んでゆくことになりました。今次年会にて引退される器方のご挨拶を伺い、兼任等で具体的に教団と教会を支えることについて、真剣な話し合いがなされました。更にもう一つ加えるなら、コロナの影響もありましたが、実に数年ぶりとなった締括りの宣教会です。宣教会はリクルート活動ではありません。罪人を救い、造り変え、世に派遣される宣教の主の御意が、聖言を通して伝えられる場、伝道者が派遣主なる御方の前に、反省と感謝と光栄を以て跪き、使命を再確認する場、神に召された者たちが信仰と勇気をもってその召しに応答する場です。その御声を聞いた方々のため、引き続き主の豊かな導きと祝福をお祈りして参りましょう。今月はまた、主の十字架のご復活を記念する月ともなっています。主イエス様の地上の御生涯の終わりと

その意味を、今年も厳肅に覚えたいと思います。またそれは救いのための準備期間の終わりでもありました。主の十字架のゆえに、私たちは古い、罪人としての生涯を終わらせることができます。

そして復活の主を仰ぎ、復活の主とともに、復活の主を伝える新しい時代が始まりました。弟子たちにも本当の意味でキリストの弟子としての生涯が始まったのです。そこで始まった新しい時代は古びることなく、今も日々新しい命の息吹がそよんでいます。

最後の晩餐の場で聞いた、主の最期のお話の後で、弟子たちは、どんなに驚き、恐れ、悲しみ、絶望的な不安に包まれたことでしょうか。この先なにをすればよいのでしょうか。どう生きていけばよいのでしょうか。

そんな不安だらけの弟子たちでしたが、イエス様は祈りの場所に、彼らが伴ってくれるようにと望まれて、祈りの園に連れてこられました。そんな時であるのに、肉体は弱く、ともに祈り続けられずに眠ってしまいました。しかし、祈り終えたイエス様は、弟子たちの所へ来て、裏切者の待つ逆境の場へ、その先に待つ十字架の道へ、さらにその先にある復活の勝利に向かって「立ちなさい。さあ、行こう。」と声をかけて下さいます。コロナ、戦争、自然災害、経済不安、収穫は多いのに働き人が少ない等々、不安材料はたくさんあるでしょう。どんな逆境でも、死ですらも、復活の主がともにおられる所に希望があります。ですから私たちもイエス様と一緒に「立ちなさい。さあ、行こう。」

目次

- 立ちなさい さあ、行こう……蔦田聡毅……1
- 年会を越えて、ビルド報告、eラーニング案内……2
- イースター、有志読書学会、若手牧師研修会……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、祈りのネット……4
- 式文改訂について、組織改革検討チーム、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

第77次年会を越えて

主を中心に集まり
祈り続ける一年に

教団代表 岩上祝仁

「あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」

(マタイ一八・19、20)

第77次年会を越えて新しい教団年度が始まりました。イムマヌエルの全牧師が任命を受け、全ての教会で新年度の歩みが始まりました。教会を取り巻く状況は決して簡単なものではありませんが、主を見上げつつ、信仰によって前進して行きたいと思えます。

今年度のテーマは「祈り」でした。年会を越えて、イムマヌエル教会の皆さまとともに取り組みたいことは祈ることです。私たちは良い時も悪い時も、この世界を創造し、治めておられる主を見上げ、祈りたいと思います。今の時代に私たちが置いて使命を与えておられるのは主なる神なのです。

ら。同時に心を合わせて祈りましょう。私たちには個人的には様々な思いがあります。それを全て主の愛の手に委ねて、イムマヌエルの群れがこの年、主の使命である「伝道・宣教」に心を向けることができるように、一緒に祈りましょう。一人の方が救い主キリストを信じ、神の子どもとなり、洗礼を受けて教会に連なるように、伝道のために、そしてキリストのからだである教会が信仰と愛によって建て上げられて行くために、一緒に祈っていただきたいのです。

同時にこの祈りを個人で祈るだけでなく、集まって祈る祈禱会を大切にしましょう。各教会では週の半ばに祈禱会が行われています。今年は祈り会に一回でも二回でも出席してください。オンラインで参加ができる教会もあります。集うことが難しいなら、同じ時間に家庭で祈ったり、祈りの課題を受け取って時間は異なっても心を合わせて祈っていただきたいのです。その祈りの輪の中には主イエスが中心にいてくださいます。主がともにいてくださるからこそ、私たちは試練の中も勇気を持って困難に立ち向かい、それを主の力によって乗り越えて行くことができます。イムマヌエルの群れが心を合わせ、信仰の祈りに一年を通して真剣に取り組みたいと思います。その結果、与えられる主の恵みの御業を見せていただき、ともに感謝を主に捧げたいと思います。祈る一年を送りましょう。

ビルドは月に一回、掲げられたテーマに沿って、分かち合いの時間を持つオンライン集会です。今年が明けた1月と、それに続く2月に、ビルドでは初となる、講師をお招きして連回という形で開催いたしました。

「ビルド」からの報告

「知る、考える。LGBT」
に参加して

ビルド委員会 吉村 聡

ビルドは月に一回、掲げられたテーマに沿って、分かち合いの時間を持つオンライン集会です。今年が明けた1月と、それに続く2月に、ビルドでは初となる、講師をお招きして連回という形で開催いたしました。

テーマは「知る、考える。LGBT」。多様性が謳われる現代社会において、最も先鋭化したテーマになりつつある「性の多様性」ですが、そこで交わされる様々な主張は、教会にとっても無関係な事柄ではありません。そこで今回講師に藤本満先生(高津教会)をお招きして講演をしていただきました。

1月に開催された#1では、性の多様性について、各教派・教団・教会の中ではどのように紐解かれているのか、その趨勢を分かりやすく説明された動画を視聴しました。社会にあつてその複雑さを内包している多様性という問題ですが、それは教会という枠組みにお

いて、より顕著な出来事として浮かび上がります。その教会の実情を考慮しつつ、動画では▼反対派と肯定派の分岐点 ▼おおよそ理解している聖書の解釈 ▼反対派／肯定派のそれぞれの意見 ▼愛と性の尊さと複雑さ という4つの要点が紹介され、「性の多様性」について、キリストにある愛と隣れみ深さを模範とした、冷静で温厚な議論の必要性が説かれました。

2月に開催された#2では、性の多様性という社会の潮流の中にある教会の現状を踏まえつつ、その立場や態度を表明する上で指針となる聖書解釈に焦点を当てて、スライドを用いながら主な聖句について講解していただきました。講演の後にはスモールグループに分かれて分かち合いの時を持ち、最後に各グループの代表者に、グループ内で出た意見や感想などをシェアしてもらいました。

今回、この集いを開催するにあたり、ヤコブの手紙一章19節を引用して、キヤッチコピーを、聞くことから、始めよう」といたしました。意見や立場が分化し、多様化にあつて複雑さを増している現代だからこそ、まずは互いに耳を傾け合い、相手の声を聴く必要を思われます。「性の多様性」について、教会や信仰者が求められる姿勢と、必要とされている在り方について、多くの示唆が与えられる機会となりました。この場を借りて、藤本先生に改めて謝辞を申し上げます。

Nonviolent Communication
非暴力コミュニケーション)は、1970年代、米の臨床心理学者マーシャル・ローゼンバーグ博士により提唱された、自分の内と外に平和をつくるプロセス。本講座では、聖書的アプローチで学びます。裁くことから自由になつてみませんか? 対立するそれぞれの「正義(自分が正しいという思い)」を越え、神の義と和解を味わう道を、日本ナザレン教団鹿見鳥教会牧師・久保木聡先生による1本10〜15分くらいの動画、週に3〜4本視聴&テキストを読み、4週間程度の期間で学びます。Noeのマガジンを使つてのeラーニング。講座終了後も何度でも視聴可。以前の受講者はそのアカラントで大丈夫。神学生、伝道者、牧師には教育局から補助有。4/18開講。問合せは大津博子へ。



eラーニングのご案内

最近耳にする、
NVCって何?
と思った方も、
初耳な方も……

担当 大津博子
ohtsu@immanuel.or.jp
http://grace-online.jp

イースターの 思い巡らし 最初の目撃者は私？



ルカの福音書 24：5-6

WGM宣教師
ホリー・ミュールハイゼン

最初のイースターの朝、復活の最初の証人となったのは、3年間イエスさまの宣教に従い、支えてきた女性たちでした。彼女たちはイエスさまが墓の中で死んでいると信じていました。それで特別な香料を持参し遺体を整えようとしたのです（1節）。しかし墓に着いたとき、彼女たちは混乱してしまいます。墓の入り口を塞いでいた重い石が動かされ、遺体がなくなっていたのです（2、3節）。いったい誰が石を動かしたのでしょう。遺体はどこにいったのでしょうか。彼女たちが遺体を探していると、天使が現れ、イエスさまこそメシアであると告げます。イエスはもう死んでいない、予告された通りよみがえったのだと（ルカには6回）。そう言っただけで天使はイエスさまが死んで3日目によみがえると告げられたことを、彼女たちに思い出させました（5、7節）。

彼女たちが見た天使は、イエスさまが生きておられること、死か
らよみがえらえたこと、イエスさまが告げられた通りにすべてのことが起こったことを告げます。それを聞いて彼女たちは興奮します。9節には、彼女たちが急いで弟子たち全員にこの良い知らせを伝えようとした様子が描かれています。でも弟子たちは、この忠実な女性たちの証言を信じませんでした。少なくともイエスさまが直接現れてくださったまでは信じられなかつたようです。あなたは何の証拠もなく、天使と話したという人の言葉信じようと思うでしょうか。それともペテロやヨハネのように墓を見て走って行くこととするでしょうか。それから二千年後、私たちはイエスさまが私たちの罪のために死んでくださった、私たちが救われて神さまと正しい関係を結ぶために主はよみがえられたという事実を祝ひ続けています。

クリスチャンの私たちは神さまがしてくださったことを喜び、最高のお祝いとしています。しかし一方で良い知らせや私たちが祝っていることの意味を知らない人たちがまだまだたくさんいます。

神さまは私たち全員に神さまの救いの証人として、復活の力を自分の人生に生かして生きるように呼びかけておられます。そうです、神さまは私たちに福音のメッセージを伝えるように、イエスさまが復活されたことを身近な人に伝えるように呼びかけておられます。あなたは誰かの人生にとつての最初の証人になるかもしれせん。

教役者のための読書学び会

きよめの良書を学ぶ オンラインの読書会

生涯教育課 葛田順子

「きよめの良書読書会」のご案内です。生涯学習課では昨年十月、「私たちのアイデンティティーとしてのきよめ」というテーマで、教役者有志による研修会を行いました。

その際には、聖書の中心メッセージそのものであり、私たちにとつての生命線と教えられてきたこの「きよめ」というテーマを、改めてともに学びませんかという、投げかけとともに、葛田二雄先生の「聖潔の生涯」を概観する時を持ちました。

その継続として、生涯学習課では、読書会（教役者限定）という形で、ともに学ぶ場を設けさせていただくことになりました。まずは前回の研修会の続きとして「喜悅の盈満」を学びます。一方的に聞くという形ではなく、月一回くらのペースで、少人数でともに読んで、ともに確認するという形式にできたらと願っています。参加ご希望の先生方は、小川宣嗣先生 (ogawa@immanuel.jp)、葛田順子 (sjsutad@immanuel.or.jp) までお申し込みください。締切は4月20日です。5月から始めます。

若手牧師研修会の報告

教会運営を学ぶ コミュニケーションと 役員会・幹事会の実際

教育局長 小川宣嗣

神学院卒業後7年以内の伝道者方の学びと交わりをサポートするために、基本的には年に2回の研修プログラムが提供されています。去る3月3日にZoomオンラインで持たれた研修会のご報告をいたします（全体参加者15名）。

今回の全体テーマは、研修対象の先生方からのリクエストに基づくもので、「教会運営について」というテーマが掲げられていました。今は神学院を卒業してすぐに歴史ある既成教会に派遣されることとがほとんどであり、また様々な経験が不足している中で、どうしたら信徒方との信頼関係を上手く構築できるか、役員幹事会・委員会等をどうリードして行けばよいかなどについて取り上げて欲しいとのご要望がありました。その対応として二つの発題と分かち合いの時間が持たれました。

田辺寿雄師による発題、「教会におけるコミュニケーション」では、聖書の箴言で数多く取り上げられている「ことば」に関する真

理を土台としながら、神のことはと人のことばの両面が教会の働きの中心に置かれること、自分のことばにきよめの生き方が表れ、教会での信頼関係の深まりの鍵があり、それは自動的に培われるものではないので絶えずことばによるコミュニケーションを謙って学ぶ必要があること、が語られました。大きな項目としては、「自分のコミュニケーションの傾向性を知ること」「コミュニケーションの種類を知ること」「コミュニケーションの危険・落とし穴を知ること」などでした。

佐藤信行師による発題、「役員会・幹事会の実際（持ち方）」では、こうした会議の位置づけや基本的な責任分野を押さえた上で、実際に役員幹事会や運営委員会などのような内容を扱い協議決定する必要があるのか（報告事項と検討事項）、そして具体的な会議の持ち方や進行の仕方における霊的面の心構えと現実的なアドバイスが丁寧に語られました。

小グループによる分かち合いの中では、教会における牧師・信徒間のコミュニケーションとともに、複数牧師による牧会上的コミュニケーションの実際的な必要についても語り合われました。

コロナ以前は、年会と抱き合わせで、励ましと交わりを兼ねての宿泊研修でした。今は未だ対面が実施できないのはとても残念ですが、制約下で今回も幸いな学びの機会が持たれたことを感謝します。

国内教会局から

コロナ禍にある教会
苦しみの狭間から

ある本に次のようなことが書かれていました。アンデス山脈北側の岩場に花を咲かせたアカシアの木を見て、「何一つ良いものを受けなかつたおまえは、自分の苦しみを花にして返してくれた」という詩です。こ



の感動的な一節は、主の十字架を思い起こさせます。主イエスは全人類の罪を背負って、十字架にかけられました。十字架にかけられた救う道が切り開かれました。実に苦しみの極みである十字架から神の恵みが生み出され、あふれ出てきたのです。私たちの目には見えないウイリスがこれまでの社会

(阪下謙)

国際人権団体アムネスティがイスラエル批判
国際人権団体アムネスティ・インターナショナルが2月1日、「イスラエルはパレスチナ人への抑圧と支配を制度化し、アパルトヘイト（人種隔離）を実践している」と非難する報告書を発表した。

約300ページの報告書は、パレスチナ人に対する「強制移住、勾留、拷問、不法殺傷などの非人道的行為、および基本的人権や自由の否定、迫害」について詳述し、「パレスチナ人に対する組織的抑圧と支配の体制」が作り出されたと指摘。「イスラエル国家は、パレスチナ人を劣等の非ユダヤ人集団とみなしている」と結論つけた。



海外トピックス

イスラエル外務省は、報告書の発表前に開いたオンライン記者会見で、アムネスティが「ユダヤ人の故国としてのイスラエルの存在を否定する目的で」二重基準を用いていると非難。「報告書は現代の反ユダヤ主義に基づき作成され

タリネット上の宗教活動を大幅に制限する。許可を得た団体以外、ネット上での布教や礼拝、寄付を募る行為が禁止される。「宗教の中国化」を推進してきた習近平政権は、秋の共産党大会を前に宗教

中国が共産党大会前に宗教統制、ネット布教の制限強化
北京発時事通信が報じるところでは、中国政府は3月から、イン

統制を強め、ネットを通じた外国の影響も排除したい考え。
国家宗教事務局や国家インターネット情報弁公室、公安省など5部門が昨年12月、共同で制定した「インターネット宗教情報サービス管理規則」が、3月1日に施行。新規はホームページやSNS、ネット中継などで、文字や写真、音声、映像を使って宗教活動を行う際、当局に申請して許可を得ることを義務付けた。

北京に住むキリスト教徒は「どのような変化があるか分からないが、先行きを案じている」と打ち明ける。オンラインの活動は集会講座、礼拝など多岐にわたる。一方、新型コロナウイルス対策を引き合いに「動きをゼロに抑え込むのはコストが大きい」とも指摘、「理論上、教会の（自由な）ネット空間は完全に閉鎖されるが、（当局が）実際に厳格に（規制を）執行できるかは疑問が残る」と語った。（平瀬聡樹）

祈りのネットワーク2022

現状は変わらずとも……
互いに祈り合う群に

編集担当 吉村和記

今年も「祈りのネットワーク」を作成します。毎年、先生がたがお忙しい中から原稿提出にご協力くださっていますことを感謝します。

祈りは楽しい！
とは言え、苦しい時もあります。言葉が出てこない時もあります。それは、祈りが人格をもったお方との交わりだからではないでしょうか。神さまとつながることの出来る大切な手段であり、欠かせないひと時、それが祈りです。それならば、神さまとの交わりをもっと豊かに、喜び楽しめればと思うのです。こんな御言葉があります。「しかし、私は主にあつて喜び躍り、わが救いの神にあつて楽しむう。」ハバクク書3章18節

今年も「祈りのネットワーク」を作成します。毎年、先生がたがお忙しい中から原稿提出にご協力くださっていますことを感謝します。

今年も「祈りの課題を具体的に」毎年、本誌の紙面の都合で、祈りの課題を三つに絞らざるを得ないことを申し訳なく思います。でも、可能な限り、今年も具体的な課題をお寄せ下さい。その課題をみんなで信じて祈りましょう。

祈りが、神さまとのつながりを深めるならば、本誌を通して祈る時、各教会とのつながりも、さらに強く感じさせてくれると思います。そして祈りの応えの兆しが見えた時、全国からの祈りへの感謝を新たにします。

各教会との強いネットワーク
祈りが、神さまとのつながりを深めるならば、本誌を通して祈る時、各教会とのつながりも、さらに強く感じさせてくれると思います。そして祈りの応えの兆しが見えた時、全国からの祈りへの感謝を新たにします。

祈りは楽しい！
とは言え、苦しい時もあります。言葉が出てこない時もあります。それは、祈りが人格をもったお方との交わりだからではないでしょうか。神さまとつながることの出来る大切な手段であり、欠かせないひと時、それが祈りです。それならば、神さまとの交わりをもっと豊かに、喜び楽しめればと思うのです。こんな御言葉があります。「しかし、私は主にあつて喜び躍り、わが救いの神にあつて楽しむう。」ハバクク書3章18節

祈りの課題3点
①先生がたの顔写真（単身の単身の女性の先生方は教会員と一緒に、教会活動でも可）②教会内外観の写真。ぜひ新しい写真をお願いします。

コロナ禍は、変わらずとも
預言者ハバククは、カルデア人（バビロン）から受けていた暴虐を嘆き、変わらぬ現状を訴えます。「いつまでですか、主よ。」（同書1章2節）コロナ禍も全く変わ

最終提出期限 4月13日（水）
この日までにはお願いします。
●送り先 久留米教会（吉村）
*出来ればメールで。封書も可。
inori@immanuel.or.jp

条例審議委員会から
式文の改訂作業の途中経過
新改訂2017に準拠した
新しい「式文」を準備
試用のためのパイロット版も

条例審議委員長 葛田順子

教団の公用聖書である新改訂聖書が2017年に全面改訂されたことに伴い、「式文」にも改訂の必要が生じました。「式文」は、洗礼式や聖餐式、結婚式や献児式、ご葬儀、教会堂や個人宅の建築に関わる諸式など、私たちの信仰生活の重要な場面で執り行われる「式」を導くために用いられる大切なものです。

せっかくの改訂ですから、聖句の入れ替えだけではなく、文章全体も見直しを、ということ、条例審議委員会内の小委員会で作業を進めてきましたが、このたび一通りの作業が終わりましたので、この後いくつかのステップを踏んでから、皆さまのお手元にお届けいたします。

▼まずは年会後、春の教会会までに、改訂案全文のPDF版を全国の先生方にお届けします。

▼中でも特によく用いる聖礼典部ロット版を作り、試用期間を設け

ます。ぜひ実際に使ってみていただきたいと思えます。もしご意見があれば、今年いっばい受け付けさせていただきます。

▼その後、正式な出版・発行となります。可能なら、来年の年会に間に合えばと考えています。

今回の改訂にあたっては、次のような点に留意しました。

◆使用する際の見つけやすさを考えて、聖礼典、教団に関わる諸式、教会に関わる諸式、個人の信仰生活に関わる諸式、のように、新しく章と節を設け、項目ごとに区分しました。

◆聖句だけでなく、全体の用語遣いも、なるべく聖書に合わせるようにしました。

◆必要なポイントを抑えつつ、重複している表現などは統一して簡潔にすることを旨とし、特に耳で聞いてわかりやすいような言葉遣い・表現を用いるように、心がけました。

◆ご葬儀や建築など、教会外で用いるケースも多いことを考え、その際の利便性を意識して、聖句は引照箇所だけでなく本文自体を掲載するようにしました。

詳しい改訂の方針は、PDF版と併せて文書の形でお届けしますので、そちらをご覧ください。

教会にとっても個人にとっても大切な場面で用いられる式文ですが、最善のものに整えることができますよう、完成まで引き続き工程に、主のご教導が与えられますように、ぜひお祈りください。

組織改革検討チーム

教会会等で話し合つて
いただきたい事柄

検討チーム 佐藤信行

「それを、ここに持って来なさい。」(マタイ一四・18)

今年会を目指して、組織改革検討チームでは「15の提言」(以下、項目のみ掲載)をまとめました。

- (1) B Aの教団運営委参加継続・年齢制限撤廃(2)教区主事の連続任期の延長・役割(3)国内局に伝道部と支援部を設置(4)牧師支援・厚生全般の連繫・統合(5)全国教会の情報インフラ整備(6)教会事務・会計・施設管理者の育成支援(7)教会の伝道・牧会に関わる育成支援(8)牧師・青年・信徒育成プログラム・体制の構築(9)神学院と教育局の連携強化、神学生教育の方向性(10)国内伝道と世界宣教の協力・連繫(11)複層的・多面的な情報・交流ネットワークの形成(12)教団関連の牧師・信徒奉仕の統合・活用(13)常置委員会の再編(14)総会代議員の任期切替時点の変更、職責上の代議員の撤廃(15)15の提言の今後の検討方針。
- 今年度は各部署での検討期間となりますが、各教区や教会でも特に提言(2)(5)(6)(7)(8)(10)(11)の具体化に向けて、問題点や現場の必要・方策などを話し合っていたいただければ感謝です。主の導きを祈りつつ。



きみの色

「その衣は非常に白く輝き、この世の職人には、とてもなしえないほどの白さであった」(マルコ九・3)。

▼1989年(平成元年)3月、聖宣神学院卒業直後の年会在任命において、筆者は初任地(現任地)松江をいただいた。「はい」と応えて始まった牧師としての歩みであったが、その任命は、そこで既になされていた保育の働き(保育園)に就くことを意味していた。赴任してすぐの5月に前任者は召天、早々に手続きがなされ、6月からは「園長」の職務を担うことに。爾来33年「えんちゃんせんせい」と呼ばれ続けた日々も、この3月末をもって終止符を打ち、退職した(定年を待たずに)。

▼年度末間近のある日。卒園を控えた年長児たちには既にそのことが伝わっていて、彼らのための「お別れ会」であったにもかかわらず、年中児たちとともに感謝と労いを歌に託して、筆者のために披露してくれた。「きみイロ」という歌で、サビの最後に「たったひとつ きみイロ」とあって、一人ひとりのイロ(個性)をお互いに認め合おうというメッセージが込められている、明るい歌だ(思わ

ずウルウル)。

▼「かつて一色に十年と思っていたが、この頃は一色一生と思っている。」(志村ふくみ)染織家として既に活躍していた志村は、人造藍の台頭で衰退の一途を辿る藍染めの再興をこの思いつから「藍建て」を試みる。しかし、その志が「綺麗ごと」と一蹴されるほど、その工程は過酷、繊細で、一度は断念を口にするほどであった。志村が師と仰いだ紋染作家、片野元彦は、最初に志村にこう語った。「藍を建てることは子どもを一人持ったと思わねばならない。藍はその人の人格そのものである。……」「(一色一生)▼あどけなく「きみイロ」を歌う子どもたちから「きみのイロ、ステキだね」と微笑みをもらい、色づくりは一生の仕事、とその道を極めた人物の重みのある投げかけに、これからの歩みを重ねている。

▼あの変貌のイエスさまが弟子たちに「色」として認識されたのは、身にまとっておられた衣ゆえだ。至高の白。その衣に包まれた主ご自身は、いかなる色にも譬えられないであろう。改めて主を思う今、その卓越さを心に刻む。

(南場安正)

巻頭言

主のあわれみは尽きない



世界宣教局 葛田敬子



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

「私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともに産みの苦しみをしています。」(ローマ八章22節) この原稿を前にしている時、

日々報道されているのは世界が見つめる地域の戦況です。皆様がこれを読まれる頃、状況がどのようになっているのか想像もし難い思いがいたします。人間の欲望、利己主義、傲慢……「罪人」の性質が抑止も緩和も調整もされないで、そのままむき出しに反映される世の中があったとしたら、どれだけ悲惨で絶望的な状態になるか想像したときに、私たちの世界にどれほどの神さまの恵みが注がれているのかを考えさせられました。「実に、私たちは滅び失せなかった。主のあわれみが尽きないからだ」(哀歌三・22)。「主は……あなたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」(II

ペテロ三・9)。「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである」(ヨハネ三・17)。幼い時に救いの恵みに与りましたが、十字架がなかったならば生きる道のない罪人であることに気づくのに十年かかりました。罪人であることは認めていましたが、まだまだな方で、私より悪い罪人はたくさんいると思っていました。クリスマスチャンのはず、と思いがながら全くそぐわない自分の実質。この日本で、まことの神さまも十字架の恵みも、初めから教えていただいていながら、こんな生き方しかできない自分こそ「罪人のかしら」。自分ほど救いようのない罪人はいない、という絶望の中で初めて、イエスさまの十字架が私のためであることがわかった。それが私の信仰の新しい出発点となりました。「わたしはほんの少しの間、あなたを見捨てたが、大いなるあわれみをもって、あなたを集める。怒りがあふれて、少しの間、わたしは、顔をあなたから隠したが、永遠の真実の愛をもって、あなたをあわれむ。——あなたを贖う方、主は言われる。」(イザヤ五四・7、8)

冒頭の聖句には続きがあります。「……私たちは、この望みとともに救われたのです」と。見える所に打ちひしがれ、胸を潰される思いの私たちですが、贖いの主の恵みに希望を見出し、復活の主を見上げて前へ歩み続けたく祈ります。

教会では新しく始めることが計画されている日本語クラスについての話し合いを持つときがありました。内容について様々な意見が出され、建設的なひと時となりました。当初は3月からクラスを開始する計画でチラシ案なども作成されましたが、話し合いの結果、もう少し内容を練り直して、開始時期は再検討することになりました。このクラスを通して、教会につながってくださる方が興されるようにお祈りくださると感謝です。月末には「二二八」という(日本では残念ながらほとんど知られていない)台湾にとって歴史的な出来事を記念する日(和平記念日)の国定休日がありました。(※どんな出来事を記念しているかは是非ネットなどで調べただけると幸いです)それまでは天気も悪く、寒い日々が続いていました



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2022年3月7日

2月に入り、台湾では旧正月を迎えました。こちらは旧正月を祝う文化圏に属しており、西暦の正月よりも旧正月のほうが盛大に祝われます。

今年1月29日から2月6日までが旧正月休みとなりました。旧正月休暇の間は会社も学校も休みになり、多くの人が実家や義実家に集まる時となります。久保家の子どもたちも小学校や幼稚園が休みとなりましたので、一週間以上一日中家族が勢揃いの(にぎやかな!)状態が続きました。

来事で、いちいち反応している人はいないように感じられました。台湾国内の新型コロナウイルス感染者数も特に爆発的な増加をすることもなく守られています。旧正月前後で、国外から帰ってくる方の中で感染者数が増加していることはありましたが、台湾の場合は入国後の隔離期間が厳重に管理されているためにそれが直ちに市中感染につながることはないという安心感もありました。北部の都市や南部の港でクラスターになりそうな事案もなかったわけではありませんが、広がることもなく守られていることは感謝です。

が、その前後から急に天気が良くなり、長袖を着ていると暑く感じ、ほぼ夏日のような気候となりました。昨日まで冬のような気候だったのに、ひと晩明けると夏のような気候。さすがに驚きを覚えました。気候の変化によって体調が影響を受けないようにもお祈りいただければ幸いです。■



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2022年3月9日

「山も丘も 義によって 民に平和をもたらしませうように。」

(詩篇七二篇3節)

1月中旬よりコロナのオミクロン新感染者数は減少し始め、2月末には千人にまで減少しました。この減少に伴い、全国の隔離措置対策(ロックダウン)の各地のレベルも引き下げられ、規制が緩和されていきました。最近ロサリスでは、5歳以下の子どもでもショッピングモールに入れるようになり(2年ぶり)、少し賑やかになってきました。

北中央パンガシナン教区の教職

者によるリトリートが、近隣のリゾートホテルで2日間開かれ、常喜が通いで参加しました。ゲストスピーカーはウエスレアン教会代表のギリアモ先生(ご夫妻でした)。ギリアモ先生は第一列王記一九章から伝道者が覚える霊的、肉体的、精神的疲労とその回復について、ウエスレアン教会の牧師先生たちが経験されていることと重ね合わせて話してくださいました。2日目は、自己評価ということについて、ウエスレアン教会の教義及び条例を取り上げて講義をされ、牧師先生たちから現場での体験を踏まえた質疑応答のときもありました。その中で、聖餐について質問や意見が活発に交わされました。コロナ禍にあって、こうしたリトリートを開くことができ、交わりの時が与えられたことによって牧師先生たちは慰められ、励まされて帰途に着きました。■



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2022年3月3日

「苦しむ者や貧しいものが水を求めてもそれはなく、その舌は渇きで干からびる。わたし、主は彼らに答え、イスラエルの神は彼らを見捨てない。わたしは裸の丘に川を開く。平地のただ中には泉を。荒野を水のある沢とし、砂漠の地を水の源とする。...それは主の手がこれを行い、イスラエルの聖なる者がこれを創造したことを、彼らが見て知り、心を留めて、ともに悟るためである。」

(イザヤ四一章17-20節)

カンボジアの長期に亘る断水、建設会社の乱開発に加え、雨が降らないという問題で、何か月にも亘る毎日の給水タンク前での行列、家まで水を運び、家につくと二階のシャワーに、一階の台所に、トイレのために、と分ける日々に体中が痛み、肩は重たい水を運ぶために青いアザが、という過酷な生活の報告に、緊急祷告依頼を配信して、全国の諸教会の祈り手方が、教会や家庭でお祈りください

ましたことを心から感謝申し上げます。「正しき者の祈りは働いて大いなる力あり」とヤコブの御言通り、2月22日のテレビ電話を通して、主の見事な奇跡的応答の報告は「昨日(21日)雨が降りました! しかも夜中の1時に水道から水が出ました!」という報告でした(雨期は4月から5月です)。実は以前、フィリピンの山岳地シニップでも経験したのと同じ主の奇跡でした。水道も電気もない時でした。今は亡きヴェッセル宣教師が山から降りて来られ、生活水の供給源である山の天然貯水池に雨が降らないため、干上がって生活できなくなった、との報告。その夜、主は冒頭の聖句を指さしてくださいました。翌朝ヴェッセル宣教師はその御言を信じてすぐに家路につきました。その途中、真っ青に広がる前方の空に浮かぶ手程の雲を見て、その雲がシニップの辺りでは、と運転していたホセ兄に話しながら、尚も車を進めてゆくと、車が村に入った途端、村の真上だけに覆い広がった雨雲から滝のように雨が!以後、水での問題は起きなかった、と。同じ奇跡を通して信じる者に御自身の全知全能者たるを証ししてくださいと祈りました。同じ柳の木の下に鱈はいない、とは子どもの頃聞いた諺でしたが、神には然らず、神はすべての事を成し得る事をカンボジアの信仰者にも示してください、さらに信頼と服従を堅くしてくださいました。その信仰



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2022年3月11日

の証しとして、今年のコイン献金をヴァンディ師が始められた教会の建物と働きのために受けとっては?と彼の意向を尋ねた時、画面の向うで彼は大分思い廻らしておりましたが、結論は「神様にだけより頼むべき事と、信徒の信仰の成長のために今回は受け取るべきでないと思います」と結論を出しました。驚くばかりの信仰の姿勢、その霊が教会員の一人ひとりにも注入されるようにと祈り、教会を建て上げなされる主の御名を崇めつつ、祈って終わりました。引き続き働き前の前進のためお祈りをいただきたく、感謝とともに。■

「僕はいつも患者さんに、病院の宣伝はしなくて良い、でもイエス様の事を宣伝してね、と言ってあるんです。」「ウィットリット、ジーザスヒールズ(私たちは手当てをし、イエス様が癒してください)」という病院のメッセージが最近心触れながらのメッセージが最近心

IWF 宣教師 活動報告

ロビン・ホワイト&陽子宣教師



皆様のお祈りを心から感謝します。おかげさまでオンライン漫画ミニストリードローブリッジ・クリエーションズでは、最初のプロジェクト「Waypoints ~分岐点・そこにある出逢い~」を2021年8月に開始することができ、その後も1ストーリー/月のペースでWaypoints.jpでの漫画掲載を継続しています。どのストーリーもイエス様に出会って人生が変えられた人達の視点から描かれています。クリスチャンがノンクリスチャンの友人や家族に漫画のサイトを紹介を通してキリストとの出会いを提供できる、そのような伝道材料として用いられていくことを願っています。このミニストリーのビジョン等詳細はDrawbridgeCreations.comで読めます。世界宣教局のHPからも上記2つのサイトに入れるようにしていただいています。是非ご覧ください、続けてお祈りください。

に留まっています。新型ウイルスの問題が起きてから、手術室総スタッフとの毎朝のデイブーションが週一になり、最近手術室受付付近に距離を取りつつ集合しながらチャプレン(病院付きの牧師先生)を招いて行われています。そのひとコマです。

新型ウイルスと言えば、最近3回目のワクチン接種を許されました。副作用も翌日からの数日の筋肉痛と腫れ程度でおさまりました。この一か月ほどは新型ウイルス感染者さん専用の病棟はがらで、大きな流行も聞いていませんが、終始宣言よりも前にマスク等の注意が極端に減ってきており、今の所はまだ注意すれば「ソーリー、ソーリー(あ、ごめんなさい)」と反応することがほとんどですが、すっかりおさまるまでもう少し頑張ってほしいなあと思う

この頃です。今月は電気と水道の問題が度々ありました。技術宣教師によって建設された自前の水力発電が、雨量や機械の問題で不調。ケニア電力の数か所の中継所の機械が壊れたり、同じく雨量の関係で供給が不安定。発電機も機械の問題で不調。主要電源のいずれにも問題があり、度々停電となりました。

また、集中治療室のような停電で止まってしまうものが多い部署には非常用の電源(電池のような物)があり、最近新しく交換されたようですが、何故か手術室の物は過去9年間交換されず、ほとんど機能していないと知らされました。(数年前に交換されたか聞いたかと思っていたのですが)そのため、主要回路が停電になった後、手術室関係の部署が電池で2時間位はもつ代わりに、1分もた

たずに完全な停電に陥る、という事が何度かありました。携帯電話の灯を頼りに手術をしたり、電気で出血を止める機械が使えないので、ひたすら糸で縛って止血したり、という報告がありました。最近の人工呼吸器は、機械自体に充電機能があり、多少は電源がなくても持つのですが、もし長くなればその電池も無くなるので、ひたすら手動で肺に空気を送り続けるスタッフが必要になることを想定し、総師長室に増員の可能性を示唆しながら少々緊張した夜もありました。最近ようやく手術室の非常電源用の機材が新品になり、以前の2倍の数が設置されたこととで感謝です。

最近雨も降り、自前の水力発電所からの供給が安定してきており感謝です。

水道は、以前から消費が急上昇

しているのです。漏れの点検や無駄の点検等が喚起されていきました。それに加えて、数か所の建設現場でうっかりパイプを壊してしまっただという原因で断水になる事も時々あります。



■会計報告2月分

宣教献金 六七九、四九九円
月平均 一、九六五、七二〇円

お祈りの課題

台湾(久保)

◆世界の平和が守られるように
◆日本語クラスが良いスタートを切ることができるよう

◆諸集会が祝福され、充実したものであるように

香港(鹿島)

◆2月6日を最後に対面礼拝が持てなくなりました。一昨年はベントコステ礼拝から去年はイースター礼拝から対面礼拝が再開されました。今年のイースター礼拝のために

◆オミクロン株の感染者が増加の中、中央主導の政策がなされています。3回のPCR強制検査で、3回のワクチン接種が義務づけられています。正しいデータ管理がなされるように

◆近隣では3月よりさらに多くの

ネット上の規制が施行されています。各地の群れが守られるように
◆牧師たちの健康が支えられ、マルチビザが与えられ、使命を全うできるように

フィリピン(豊田)

◆聖書大学のオンラインクラスで学生たちの学びが祝され、霊肉ともに守られるように

◆聖書大学では新年度(二〇二二年8月)から対面授業を計画。そのための経済的必要と準備を整うように

◆事故、事件、怪我、過ち、災害病氣、疫病から家族が守られるように。常喜の網膜静脈閉塞症、恭子の甲状腺嚢胞の回復のために
カンボジア(鳥田緑乃)

◆女子寮・男子寮のためにさげげられていた米国の教会の献金が7月に打ち止めとなります。その後のための主の導きと次のステップのために、また、必要が与えられるように

◆伝道者の使命感が崩されず、救霊の力に満たしていただけるように

◆ヴァンディエの教会建設のため結果を通してリーダーシップが証しされ、伝道者に励ましと模範として立つ事ができるように

ケニア(鳥田就子)

◆手術室用の非常電源が更新された感謝

◆病院の働きが、福音の深化と伝達のために用いられるように

◆麻酔科整形外科等の働き(ルカー100%)が起されるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

主はいつくしみ深い

院長 ● 林 正弘

「主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。主の恵みはとこしえまで。」(詩篇 一三六・1)

この春は、残念ながら新入生がなく、静かなスタートとなっています。この春に卒業や修了する神

学生もいなかったため、卒業式もありませんでした。前学年度は終業礼拝をもって締め括られました。そこでは、哀歌三章が開かれ、3つの「良い」ことに心を留めました。その一つが「主はいつくしみ深い」でした。英語の聖書では「The Lord is good」と直訳されていますが、日本語では「主は良い」の訳ではしっくりこない

「主はいつくしみ深い」と訳されているようです。ただし同じことばが、詩篇 一一九・68では、文語訳などいくつかの日本語訳で、主が「善にして善を行う」方として直訳されています。

「主はいつくしみ深い」ということばは、詩篇を中心に旧約聖書で何度も出てきますが、それを含む冒頭の詩篇のことばは、主を讚美するときの定型表現です。このことばに導かれるこの詩篇は、「いつくしみ深い」主とそのみわざを次々に挙げながら、各節が「主の恵みはとこしえまで」で終わります。この詩を歌った人々が、造り

主である唯一の偉大な神さまを思い、出エジプトからカナン定住までのみわざを思い起こしたとき、神の民にとって主がいかに良い方、いつくしみ深い神さまであるのかを改めて覚え、感謝を捧げたのは当然のことです。そしてその恵みはとこしえにあります。



神学院の玄関ロタリー いま満開の沈下花

新年度の歩みを進めていこうとするとき、このいつくしみ深い主を見上げたいと思います。コロナ禍は終息に至らず、明るい要素を見出すのがむずかしい状況にあつたとしても、主がいかなるお方か、を思い起こすならば希望の光が見えてきます。主の恵みはいつもそこにあるのですから、「善」であるお方が私たちのために最善をしてくださることを期待し、勇んで前進したく願っています。

神学エッセー

祈りについて



梅田 昇

祈りは魂の呼吸と呼ばれ、信仰者にとって生命的な営みです。日々の生活の中で、「祈りは本当に聞かれるのだろうか」と疑問に感じる方があられるかもしれません。

1 答えられない祈りⅡ神様に祈っても願いがかなわないことがあります。お祈りして受験したが、志望校に合格できなかったという例はあるでしょう。パウロは肉体的とげが除かれるように祈ったのですが、彼の願いは実現しなかったのです。詩篇六六篇18節「もしも不義を、私が心のうちに見出すなら主は聞き入れてくださらない」とあります。ヤコブ四章3節に「求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです」とあります。動機や願いが間違っているなら、祈りは聞かれないのです。

2 答えられる祈りⅡ愛の神様は、主の時と方法で祈りに答えて下さるお方です。それは私たちの願いがすべて実現するわけではありません。丁度親が子どものために最善を提供するように愛の神様は良

い物を与えてくださいます(マタイ七・11)。第一ヨハネ五章14節に、祈りについて「何事でも神のみこころにしたがって願うなら、神は聞いてくださる」ということ、これこそ神に対して抱いている確信です」とあります。祈る時、自分の考えや計画の実現のためでなく、神のみこころにかなって祈る時、祈りは答えられます。主イエスがゲツセマネの園で、「わたしの望むようになさってください」と祈られたように、主のみこころと最善に委ねることが大切です。

3 祈りの姿勢Ⅱ祈りは自分の願望を実現するための道具ではありません。祈りは神様との会話、交わりです。

祈りは信仰者の責務ですが、祈りの結果を決定なさるのは神様ご自身です。祈ったら、主の最善を信じて待ち続けるのです。たとえ自分の願いが叶わなかったとしても今はわからない主の深いご計画があることを信じて進むことが大切です。

祈りが答えられた時、主に感謝をささげ、信仰者が主の栄光のために生きて行く姿勢を保つことは幸いです。神様が祈りに答えて下さるのは、ご自身の栄光を表わすためです。信仰者は主の栄光を表わすために贖われて生かされていることを覚え、主の栄光が現わされるように祈りつつ、置かれた立場で歩むことが期待されているのです(1コリント六章20節)。

◆学年の締め括りに

三年間を振り返って

正規コース 石川 順

「人々はあなたの豊かないつくしみの思い出をあふれるばかりに語りあなたの義を高らかに歌います。」(詩篇一四五・7)

もう3年が経ったんだと改めて感じるこの頃です。この3年間で色々学んできましたが、その中でも教えられた事は、自分を知ることです。自分を客観的に見ることです。牧会者として歩むときに自分を知ることが大切なことであると、授業の中で、また教会実習のたびに何度も教えられました。人との関わりの中で、自分は何を感じているのだろうか、あるいは何を感じていたのだろうかと自分の思いや感情に目を向けてみる。その中に、それまで気がつかなかった自分の思いや、感情を知ることがあります。そして、どうしてそのように感じたのかを振り返ると、意外にも自分の母親との関係の中に原因があったり、過去の苦い経験が原因であったりする事が見えてきました。自分自身が受けてまだ癒されていない痛みが見えてきました。人は誰しも心

の痛みや傷を負っています。でも、その痛みや傷が癒されなまま放置されていると、人間関係の中で様々な形で歪みが出てくることも学びました。自分の痛みや傷に気がつくこと、そしてその心の傷が癒される事は自分の人格の成長につながる事だと思えます。

自分の心の傷に向き合うことは非常に苦しいことです。できれば避けて通りたいと思います。でも、自分の心の傷に向き合わなければ一生癒やされることはないのだろうと思えます。だから、私の心を知ってください。神様に助けて頂いて、自分の心の傷に向き合います。そしてその傷が少しずつ癒やされると、温かい気持ちになります。イエス様の愛ってこんなに温かいんだなと感じます。その温かさを持つて人と関わっていく時に、良い関係ができてくるのだと思えます。

入学して1年目に「キリスト論」のクラスがありました。イエス様の受肉(神様が人間となったこと)を学んだときに、今までも聞いたけれど、改めて受肉の意味の大きさを感じました。「神が人となった」という宗教は他にはない」とクラスで先生が言われて、確かにそうだと思いました。時間も空間も超えた偉大な神様が、限られた時間と空間を持つこの世界に人間としてこれ、神様自ら私たち人間に近づいてきてくださった愛を覚える時でした。

にお祈りして頂き、この3年間の学びが守られたことを心から感謝します。3年間の学びが一区切りとなり、この4月からはインターンの期間になります。卒業までの最後の1年間も主の恵みを体験しながら歩みたいと願っています。

◆学年の締め括りに

やっちまった談義

聴講生 石川牧子

ゴシゴシ、キュッキュ。後期の学びを終え、晴れ晴れした気持ちで学院の大掃除！学びの友と一緒に何かをすることが嬉しくて、いつも以上に張り切ってモップ掛けをする私のポケットで、携帯が鳴っている。……幼稚園からだ。「あの、お迎えの時間が過ぎていまして……」「すつ、すみません!! いま行きます!!」空気がガラリと変わった。幼稚園では感染者が出る度に、臨時休園の連絡が度々あり、先生もママ友もどこか重く、ピリピリした空気が漂っている。予定変更の紙を見ながらの日々。この日は完全にお迎え時間を勘違いしていた。「あーやってしまった!」独りぼつんと待たされている娘の姿を思い、ごめんと思いつながら自転車を走らせました。園に着くと、娘と一緒にウツ

カリ母さんを待つもう一人のお友だちがいた。その子がいてくれて良かった。後からその子のお母さんも走ってきて、「園長先生から電話きちゃった人? あー安心した!」お互いに指差し、「やっちまったねえ!」と苦笑い。隣で先生も大笑い。感染者が出て、日々対応に悩まされ、マイナスの声も受けつつ、笑顔が見られなくなっていた先生とも、柔らかな空気感を共有した。

幼稚園の門を出ると、隣の公園に、ちゃんとお迎えに来られた親子たちが残っていた。私もその輪に入り、失敗はすぐバレた。すると一人のママ友が「私なんてさ、昨日面談で保育ない日なのに、しっかりお弁当持って登園しちやっただよ」すると別のママ友が「私なんてもっとひどいよ、面



2021学年年度の終業礼拝が行われました

談自体忘れたもん」「うちもお迎え時間何回も間違えてる」。もっとひどいやっちまった談義は止まらない。度重なる休園が続いて、互いのことを話せてなかったから。みんな、ワーッと話し、互いの失敗を聞いてひと安心。コロナで続いていた重たい空気感の中に温かさや笑顔が広がった。

失敗をなかなか許してもらえない世界があつて、コロナで一層その傾向は顕著。また、親になってこれまで以上に失敗が露わになり、子育てに無力さを感じているお互い。そんな時、そのことを共感できる存在は慰めを感じる。そこには相手を責めるという空気はなく、みんな欠けだらけのお互い。そう認め合う所になんとも言えない温かさが生まれる。弱さを持たない人間はいない。このコロナ禍で、私の横に、私の弱さや欠けを受け入れてくれるママ友がいる恵み。イエス様の温かさ。

幼稚園で、クリスチャンとして何かできることはないかなどと思っていた私だが、とんでもない私がついてもらっている側で、その恵みに気づかされる。これも学び。イエス様はこの壊れやすい土の器のような私のうちに住まわれ、その欠けた隙間から光輝いて下さっていることを知らされます。全ての学びに感謝。

* 「私たちは、この宝を土の器に入れていきます。」(IIコリント四・7)

いま神学院では……
牧会学Iの授業を終えて
 教師 ● 田中 進



対面で行われた後期最後の授業で、「この授業を通して学んだこと」を短くまとめたりポートを発表してもらい、互いにそれを分かち合う時を持ちました。一人ひとり、それぞれの視点から大切な点を捉えておられました。

3名のリポートのほんの一部を紹介いたします。(本人たちの了解を得ていますが、匿名とします)。

まず「牧会学Iを通して学び、心に留まった中で一貫していることは、牧師の仕事は、その牧師である自分自身のあり方、生き方、考え方、とりわけ神様との関係がそのまま牧会という働きに現れてくる……そしてそれは牧会していく人間関係に大きく影響していくということ。そのことを強く思わされました」。

もう一人は「授業で学んだ大切なこととして、共通して言えることは、祈り心をもった『誠実さ』と『魂への配慮』である。それと同時に、『自分や教会を守ること』もまた必要であることを知った。具体的にみていく中で、『守秘義務』と『他の教会への干渉』については、これまでの自分の考えが新しくされる一方で、質問・疑問が残った」。

最後の一人「……しかし、一番危険なのは自分が相手を励まそうと思って発言したことが相手にとって逆に傷つけてしまう発言だったという無意識のうちに失言してしまうことだと思う。……ここでも大切になってくるのが、二つ目のところでも触れた『相手を理解する姿勢』だと思う。主観的にならず常に相手がどうなのかというを意識しながら牧会をしていきたい」。

神学院で学ぶことはわずかですが、牧会に携わる中で、大牧者である主が育ててくださると信じています。

さて、牧会とは必ずしも教会に遭わされている牧師の働きだけに限られているわけではありません。聖書が教える牧会の原則は、教会の役員やリーダー、事務担当者、教会学校の教師などに召されて奉仕している者、あるいは一人のキリスト者として、教会で、またそれぞれ置かれた環境(家庭や職場など社会の組織)の中でもそのまま適用できるのです。そのことを考えますと、教会の運営を共に担う信徒の方々とともに牧会についての共通理解をしておくために「牧師と信徒の牧会学」を学ぶことが私たちの教会(教団)でも大切なことであると感じています。

同窓生の近況

63期生
 船橋教会 ● 館 和人



2016年3月に卒業し、船橋教会に定住伝道師としての任命をいただきました。6年が過ぎました。

神学院では、広い男子寮で、ほぼ2年間一人暮らしでしたが、これまでになく多くの学び、信仰のみならず実生活の体験ができました。また、後半の1年半は、家内も食堂ボランティアとしての奉仕が許され、卒業式には、子どもたちも参列してくれました。家族上げての協力で感謝しています。

船橋教会では、新会堂への移転の時期で、2017年4月にすべてが完成し新会堂での働きに移行し、「新しい事をする」と題する記念誌も発行されました。新しい主の霊が注がれ、福音の拡大のために教会が豊かに用いられるようにお祈りください。

また、会堂活用も提唱されています。直接的な教会の営みを中心としながらも、地域に根付いた教会として、貢献できる活動を受入れ、計画、実施されています。こうした中、小さな者の奉仕のためにも主の御助けがありますようにお祈りください。

神学院スタッフ…恵みの想起

それでも春は来る

学務課 馬場満子

ロシアによるウクライナへの侵略攻撃を目の当たりにして、心が張り裂けそうになる毎日です。主よ哀れんでくださいと叫びます。宮城・福島でも大きな地震があり被害を受けた方々の癒しとみ助けを祈ります。身近な社会で、教団で、教会で、個人で……私たちは多くの問題を抱えています。しかし全部をご覧になっておられる主、全ては主の御手の中に在る事を思う時、本当に信頼しているか? 委ねているか?と問われている気がします。

ふと外を見れば緑が目を吹き桜も心をなごませてくれます。神さまの与えて下さる自然の美しさに目を馳せながら、平和な世界と私たちの心の平安を祈らずにはおられません。

学苑だより



●BTC祈り会4月11日(月)夜7時半から。オンラインで開催。
 ●3月の休講中に本館廊下や食堂のワックスがけ作業をスタッフと神学生方で行いました。
 ●年会・宣教会のために、賛美奉仕の機会が与えられ感謝でした。
 ●青少年部と協力し、BTCリトリートの準備が進められています。新しい試みとして、8月に第一弾の開催を目指しています。

●3月11日(金)、新しく軽自動車を購入しました。昨年廃車した車の代わりに購入したものです。
 ●3月中旬には、構内樹木の伐採作業が業者によって行われました。
 ●今春の入学者はおられませんので、秋に入学する方が起こされるようにお祈りください。

●新学年度は4月4日(月)から始まりました。今学期の授業、神学生方の学びと訓練のために、お祈りをよろしくお願います。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。2月の会計報告をさせていただきます。

2月分支援実状
 [今年度毎月献金目標]
 ￥1,500,000

教会員による「神学院サポート献金」
 ￥350,980
 教会団体による「神学院献金」
 ￥407,525
 合計 ￥758,505
 その他の献金(一時・特別)
 ￥17,000

・振替: 00230-0-10138

公報

本部通達

「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。」
 (ヨハネ二一章25節)

第77次年会を越えました。牧師の異動や変化のあった教会には、格別な主のみ助けが加えられますようお祈りいたします。今月は受難週、イースターを迎えます。受難の苦しみを越えて復活された主を仰ぎ、上よりの力をいただきましょう。

引き続き新型コロナウイルス感染への対応をしながらの新年度の歩みとなります。ウクライナでの戦闘、混乱も続く中、世界に主の平和を祈りつつ取り組んでいきたいと思います。

■本部

〈辞令交付〉

今次年会をもって、左記の先生方に教職、教職試補の辞令が交付されました。(括弧内は年会前の任命地です)

▽教職辞令

- 山本和雄師 (磐田教会)
- 山本良子師 (磐田教会)
- 小川伴子師 (別府教会)
- 川村宏美師 (越谷教会)
- 國重由紀子師 (福岡教会)
- 阪下崇子師 (佐賀教会)
- 佐藤恭子師 (立川教会)
- 田辺なおみ師 (千葉教会)

- 田辺宣恵師 (神学院教会)
- 葛田真理子師 (堺教会)
- 戸谷富士子師 (枚方教会)
- 浜田真弓師 (島田教会)
- 渡邊そのえ師 (岡山教会)

▽教職試補辞令

- 豊田恭子師 (フィリピン)

〈引退〉

今次年会をもって、6名の先生の引退が発表されました。これまでの貴いご奉仕に心から感謝し、また今後の歩みに祝福をお祈りしましょう。

- 佐藤道直師
- 葛田直子師
- 徳田文彦師
- 徳田由紀子師
- 中尾道程師
- 中尾悦子師

■総務局

10日(日) パームサンデーが着任礼拝となります。

■国内教会局

〈全国BA主事会議〉

4月5日(火) オンライン

〈春の教会会日程〉

- 4日(月) 中京
- 11日(月) 12日(火)

四国・南九州

12日(火) 神奈川

18日(月) 東京・東関東・北九州

19日(火) 北海道・東北・静岡・近畿

25日(月) 沖縄

25日(月) 26日(火) 中国

26日(火) 北関東・北越

〈月例支援金について〉

今年度の教会月例支援金の申請

を予定している教会は、申請書を国内教会局までご提出ください。〈JEA関係〉
 JEA女性委員会主催
 第9回かたりば
 日時 4月21日(木) 13時30分
 場所 Nook オンライン
 講師 藤田真木子さん(日本同盟)

基督教団・北総大地キリスト教会
 テーマ 「不登校の子どもたちと歩んで」
 申込フォームは本部連絡メールで各教会にお送りいたしました。

■世界宣教局

▽3月10日(木) 午後、局の運営委員会を開きました。4月は14日(木)に開催予定です。

▽富澤香元宣教師は、荷物片付けなどの残務整理のため、3月16日ザンビアへ出発されました。ジェンボの宣教師館については、IGMが所有権を維持しつつ、PWCに使用していただくための契約書が交わされます。約3か月間滞在の予定です。お祈りください。

▽ケニアの葛田就子宣教師は、今年6月で第六期の働きを締めくくりに、帰国されます。7月より巡回を開始する予定ですが、宣教師が教会に伺う対面方式とオンラインの両方で考えています。巡回の申込受付は5月からです。

▽4月26日(火) 午後、春の局員会をオンラインで開催します。

■教育局

〈教育部・生涯学習課〉

▽有志による読書学び会

5月より、聖潔の良書「喜悅

の盈満」(葛田二雄師)を用いて、オンラインでの小グループによる読書学び会を開催されます。

(詳細は浜松教会・葛田順子師へ)

〈教育部・信徒教育課〉

以下の方々の信徒伝道者資格の認定更新がなされました。

(更新)

池田 光重兄(千葉教会)

斎藤 純雄兄(深川教会)

小原 一夫兄(浜松教会)

山田 由紀子姉(四日市教会)

阿部 妙子姉(別府教会)

山城 明兄(那覇教会)
 前田 敦兄(武蔵村山教会)
 大土井 智子姉(広島教会)(新規)
 谷 秀史兄(神戸教会)
 小山 努兄(白鳥教会)(退任)
 中山 朝雄兄(中目黒教会)
 なお、現在新たに学びを開始された方々が2名おられます。(信徒伝道者に関するお問い合わせは野田禎師まで)

▽信徒向け読書講座(無料、各教会で自由に利用できます)
 内容 「使徒の働き」の学び(第16回目まで公開中です)
 講師 岩上敬人師(JEA総主事)
 過去の信徒読書講座
 内容 「救いの確立」(熊谷邦男師)の公開を開始します
 (聖書講座は教育局HPから常時視聴できます)

▽青少年部・青年課
 日時 5月8日(日)

▽静岡青年大会(Nook開催)

講師 細田恒太郎師
 ▽ビルド(月に一回開催)
 〈青少年部・中高生課〉
 ▽スタッフ・トレーニング・キャンプ(Nook開催)
 開催日 5月15日(日)、22日(日)、29日(日)

▽聖宣神学院
 ▽今春の入学者はありませんでした。4月4日(月)のオリエンテーションをもって新学年度が開始されました。

▽神学院祈り会は4月11日(月)、オンラインで行います。

▽神学院運営委員会
 4月12日(火)

▽インターン実習教会
 石川順兄(東京フリー・メソジスト桜ヶ丘教会)

▽教会実習は4月10日(日)から。
 ▽BTC後援会は「世話人」の新時期です。引き続きご協力をよろしく願います。

消息報告



▽佐藤道直師は先月彦根から転居されました。新住所は次の通りです。〒437-0023 静岡県袋井市高尾1496-32

▽神谷光一師(秋田教会)のお父様、神谷愛治兄は2月28日に、88年の地上生涯を終えて主のもとに召されました。ご遺族に主の慰めをお祈りいたします。

教報PDFパスワード 6517

新生宣教団 定価 一部110円(税込)

郵便振替 001107133609

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

発行所 東京都千代田区神田駿河台一